



大阪私学
教育情報化研究会



一般財団法人
草の根サイバーセキュリティ運動
全国連絡会
Grass Roots Activity For cyber
SECURITY - JAPAN

高校生 ICT Conference 2017

in 三重

高校生が考える心豊かな生活 ～ ICT×（家族・学校・地域）～

開催報告書

2017年9月30日（土） 10:00-15:00

【会場】三重県庁 講堂

主催

安心ネットづくり促進協議会

大阪私学教育情報化研究会

一般社団法人モバイルコンテンツ審査・運用監視機構

一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会

共催

内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省、消費者庁

2017年9月30日



2017

（高校生 ICT Conference は経済産業省等が主宰する「情報化月間 2017」の登録行事です）

目 次

1. 開催概要.....	2
2. 高校生 ICT Conference 2017 地域開催.....	4
3. 高校生 ICT Conference 2017 in 三重 開催概要.....	5
4. 主担当.....	8
5. 高校生 ICT Conference 2017 サミット.....	8
6. 高校生 ICT Conference 最終報告会.....	8
7. 高校生 ICT Conference の成果物と終了後の対応.....	9

1. 開催概要

名称：	<p>高校生 ICT Conference 2017</p> <p>テーマ：高校生が考える心豊かな生活 ～ ICT×（家族・学校・地域）～</p>
主催：	<ul style="list-style-type: none"> ● 安心ネットづくり促進協議会 ● 大阪私学教育情報化研究会 ● 一般社団法人モバイルコンテンツ審査・運用監視機構 ● 一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会
共催：	内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省、消費者庁
後援：	三重県、三重県教育委員会、三重県警察本部、一般社団法人全国高等学校 PTA 連合会、全国高等学校情報教育研究会、一般社団法人電気通信事業者協会、一般社団法人全国携帯電話販売代理店協会、一般社団法人日本スマートフォンセキュリティ協会、特定非営利活動法人コンピュータエンターテインメントレーティング機構、独立行政法人情報処理推進機構、一般財団法人マルチメディア振興センター
協賛：	グーグル株式会社、株式会社サイバーエージェント、株式会社ディー・エヌ・エー、株式会社ラック、グリー株式会社、LINE 株式会社、インテグラル株式会社、エースチャイルド株式会社、一般社団法人情報教育研究所、Twitter Japan 株式会社、株式会社ベルパーク、株式会社メディア開発綜研
協力：	アルプスシステムインテグレーション株式会社、株式会社内田洋行、株式会社 NTT ドコモ、KDDI 株式会社、ソフトバンク株式会社、デジタルアーツ株式会社、一般社団法人インターネットコンテンツ審査監視機構、ストップイットジャパン株式会社、株式会社ラック
開催目的：	<p>高校生 ICT Conference は、2011 年度に「ICT プロジェクト 高校生熟議 in 大阪～ケータイ・インターネットの在り方&活用法～」として大阪でスタートしました。2012 年度は、東京開催を加え計 17 校 79 人の高校生が参加し、2013 年度は、東京・大阪に加え、北海道、奈良、大分を新たに加えて 5 拠点にて開催し、計 51 校 267 人の高校生が参加しました。2014 度も同 5 拠点にて開催し、計 44 校 221 人の高校生が参加しました。</p> <p>2015 年度は、石川、長野、神奈川、福岡を加えた 9 拠点にて開催し、計 78 校 310 人の高校生が参加しました。2017 年度は、より全国的な規模での展開に向けて、新たに北海道帯広、仙台、静岡、新潟、高知を加えた 14 拠点にて開催し、計 107 校 476 人の高校生が参加しました。</p> <p>高校生 ICT Conference の開催目的には、二つの側面があります。その一つは、教育的側面であり、初対面の人と話し合うという経験の中で、段階的に「考え、まとめる、聞く、話す、見せる、伝える」などの技術を修練することです。第二に社会的に注目を浴びている携帯電話やインターネットをテーマとすることで、大人になる準備段階として、携帯電話やインターネットを安心して安全に使うために、高校生として情報モラルについて自ら深く考え、実践することで、将来のより良いインターネット利用環境の構築の一助とすることです。</p>

	<p>【本年開催テーマのコンセプト】</p> <p>IT やインターネットは、その発明の理由は別としても、民間利用においては、それらの技術を用いることで、人々の生活や事業をより効率よく、便利に営めることを目的としています。情報技術に限らず、多くの発明品は同様の背景を持ちながらも、便利さゆえに、安易な利用や悪事への利用などにより、本来の目的にはそぐわない結果を及ぼすこともあります。今年度の高校生 ICT Conference では、私たちの生活を更により良くするために、どのように ICT を利活用すれば良いか、という視点でテーマを設定しました。当然ながら、有意義な利活用とは表裏一体で、負の側面についても配慮が必要であり、より心豊かな生活を実現するために ICT の利活用における「光と影」について、次世代を担う高校生が自ら考える機会とすることを目的とします。</p> <p>※平成 21 年 4 月から施行された「青少年インターネット環境整備法」に基づき、青少年が安心・安全にインターネットを利用するための環境整備が始まった。民間の自主的・主体的取組が鋭意進められていると共に、行政に於いても施行状況の検討が進められている。一方、新学習指導要領が平成 23 年度の小学校を皮切りに、平成 24 年は中学校、平成 25 年度は高等学校で全面实施される。また、急速に普及を始めたスマートフォンや新しい ICT（情報通信技術）サービスにおいて、青少年が健全に ICT を利活用できるように育成するため、青少年への指導に加え、保護者や教職員への「情報モラル教育」の啓発活動が重要視されている。今年度は、スマートフォンの登場などにより急速に変化したインターネット利用環境下における諸問題について議論し、高校生が家庭や学校で取組むべき課題とともに、行政、事業者等への要望について本取組で提案し参考に資する。</p>
開催の概要：	<p>【各開催地での内容】 ※日程は、2. 地域開催の欄をご覧ください。</p> <p>(1) 挨拶 (2) 講演 (3) アイスブレイク (4) 熟議 (5) グループ発表 (6) 講評 (7) サミット参加者発表</p> <p>【東京サミット】</p> <p>(1) 挨拶 (2) アイスブレイク (3) 提言のための熟議 (4) 提言発表 (5) 講評 (6) 最終報告会参加者発表</p> <p>【最終報告会】</p> <p>(1) 各府省庁への提言発表（プレゼン） (2) 質疑応答・意見交換</p>
各開催地 募集人員等：	<p>募集参加生徒 30 名（各開催地により変動あり） 募集見学者各回 30 名（各開催地により変動あり）</p>
参加参観方法：	参加費・参観無料 [要事前登録]
高校生 ICT Conference2017 実行委員会：	<p>【委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> 米田謙三（大阪私学教育情報化研究会 副会長） <p>【コアメンバー】</p> <ul style="list-style-type: none"> 石田幸枝（公益社団法人全国消費生活相談員協会 IT 研究会理事・消費者

	団体訴訟室長) <ul style="list-style-type: none"> ・ 猪股 富美子 (お茶の水女子大学 人間発達科学研究所) ・ 植田 威 (特定非営利活動法人 NPO 情報セキュリティフォーラム理事) ・ 小城 英子 (聖心女子大学) ・ 齋藤長行 (青山学院大学 株式会社 KDDI 総合研究所) ・ 他、関係者団体、事業者等 【事務局】 安心ネットづくり促進協議会 〒104-0031 東京都中央区京橋三丁目 14 番 6 号 斎藤ビル 2 階 TEL: 03-3562-8850 FAX: 03-3562-1180
--	--

2. 高校生 ICT Conference 2017 地域開催

高校生 ICT Conference 地域開催では参加した高校生がテーマに沿った議論を実施し、サミットへ行く代表者を選抜します。

	地域	開催日時	会場
地域開催	北海道 (札幌)	2017 年 10 月 22 日 (日) 11:00-17:00	札幌ユビキタス協創広場 U-cala
	北海道 (帯広)	2017 年 10 月 15 日 (日) 11:00-17:00	とちちプラザ
	宮城	2017 年 10 月 21 日 (土) 10:00-17:00	東北工業大学 一番町ロビー
	石川	2017 年 9 月 23 日 (土) 10:00-17:00	石川県教育会館
	長野	2017 年 9 月 30 日 (土) 10:00-17:00	安曇野市明科公民館
	新潟	2017 年 8 月 17 日 (木) 11:00-17:00	新潟コンピュータ専門学校
	東京	2017 年 10 月 7 日 (土) 10:30-17:00	東京ユビキタス協創広場 CANVAS
	神奈川	2017 年 9 月 10 日 (日) 10:00-17:00	学校法人岩崎学園
	静岡	2017 年 9 月 23 日 (土) 10:00-17:00	静岡電子情報カレッジ
	三重	2017 年 9 月 30 日 (土) 10:00-15:00	三重県庁
	大阪	2017 年 9 月 24 日 (日) 10:00-17:00	大阪ユビキタス協創広場 CANVAS
	奈良	2017 年 10 月 1 日 (日) 10:00-17:00	帝塚山大学 学園前キャンパス
	高知	2017 年 8 月 14 日 (月) 9:30-16:30	高知県教育センター分館
	山口	2017 年 9 月 24 日 (日) 10:00-17:00	サビエル高等学校
	福岡	2017 年 8 月 26 日 (土) 11:30-17:00	都久志会館
	大分	2017 年 8 月 27 日 (日) 10:00-16:00	アイネス、大分県消費生活・男女共同参画プラザ
鹿児島	2017 年 8 月 26 日 (土) 10:00-17:00	鹿児島大学	
東京サミット	2017 年 11 月 3 日 (金) 13:00-17:00	東京電機大学 千住キャンパス	
最終報告会	2017 年 12 月中旬頃	(未定)	

東京サミットへは各地域で独自で実施した情報モラル・リテラシー啓発サミットからのオブザーバー参加者を招待予定。(サミット熟議のみ参加) ※2016 年度実績：沖縄、福井

3. 高校生 ICT Conference 2017 in 三重 開催概要

概要	<p>高校生、教員、企業関係者など 50 名の参加者を得て、「高校生が考える心豊かな生活 ～ ICT×（家族・学校・地域）～」をテーマに高校生がグループに分かれて活発な議論と発表を行いました。</p> <p>【リアル熟議】 司会進行・主旨説明 草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会 常務理事 吉岡 良平 様</p> <p>高校生 ICT Conference の概要及び本日の大まかな流れを説明していただきました。</p> <p>開会の挨拶 総務省 東海総合通信局 電気通信事業課 課長 加藤 明彦 様</p> <p>スマートフォンなどのデジタルデバイスの普及が生活スタイルをどのように変えたかをご自身の少年時代と比較された上で「包丁は料理に欠かせない道具であるが人を殺す道具にもなる。自動車も我々の行動範囲を大きく広げてくれるが、ルールを守らなければ事故につながる。スマートフォンも同様で、便利な道具ではあるが使い方を間違えると大変なことになる。ICT をどう利活用し心豊かな生活につなげるかを、他の高校の生徒と議論をすることは貴重な機会となるだろう。高校生らしいユニークな議論と発表をして欲しい」と述べられました。</p> <p>参加校紹介、ファシリテータ・書記紹介、アイスブレイク 参加校生徒、ファシリテータ・書記がそれぞれ意気込みを語った後、熟議を行う 6 つのグループに分かれて自己紹介を行いました。 その後「コピー用紙積み上げゲーム」にグループ対抗で挑戦しました。</p> <p>第一部：熟議①「スマートフォンの便利さと問題点」 与えられた下記の事前課題について、グループで熟議を行いました。 【Q1】スマートフォン等を使用して、便利と思うことは何ですか。 【Q2】スマートフォン等の問題点や危険性は何ですか。 【Q3】【Q2】を解決するために、あなたはどのようなことができると思いますか。</p> <p>昼食休憩</p> <p>ミニ講演 岡崎女子大学 子ども教育学部 花田経子 先生</p>
----	--

大学でのゼミの様子やご自身の子育ての体験から、「デジタルネイティブはすべてデジタルでものを考えているわけではなく、デジタルとアナログを区別していないだけ」と、世代間で経験している ICT サービスやデバイスにギャップがあることを考慮すべきと語り、また「高校生はサービスを受ける側の責任として自分の命を守る立場だが、将来はサービスを提供する側の責任として他者の命を守る立場になることを今から考えて欲しい」と述べられました。

第二部：熟議②「高校生が考える心豊かな生活 ～ ICT×（家族・学校・地域）～」

熟議①とミニ講演を踏まえ、事前課題の

【Q4】自他の命を大切にし、心豊かな生活を実現するために、あなたはスマートフォン等をどのように利活用できると思いますか。

についてグループ内での意見交換及び討議を行い、「自他の命を大切にし、心豊かな生活を実現するために、スマートフォン等をどのように利活用していくか」について、グループの意見をまとめました。

第三部：グループ発表

各グループともプレゼンテーションソフトを活用して3分程度の発表を行いました。（詳細は別紙「グループ発表資料」をご参照ください）

その後、参加生徒により、11月3日に開催される東京サミットに行く代表校の選定投票を行い、桑名北高等学校が代表校に選出され、発表されました。

全体講評：岡崎女子大学 子ども教育学部 花田経子 先生

「午前中は少しおとなしいかなと感じたが、午後から元気が出てきて活発な議論になり、最後はグループ内で意見を出す人、まとめる人など自然に役割分担ができてきた」

「時間が足りなかったと感じたかもしれないが、短い時間で濃い議論をするためには、コミュニケーション＝『意味の共有』をきちんと行う技術が必要。ここで学んだ技術を別の機会でも生かして欲しい」

とまとめていただきました。

参加校：

- 三重県立桑名北高等学校
- 三重県立四日市南高等学校
- 三重県立飯野高等学校
- 三重県立稲生高等学校
- 三重県立津高等学校
- 三重県立宇治山田商業高等学校
- 三重県立伊勢工業高等学校
- 三重県立あけぼの学園高等学校
- 三重県立名張高等学校
- 三重県立尾鷲高等学校

	セントヨゼフ女子学園高等学校 鳥羽商船高等専門学校 (順不同)
日 時 :	2017年9月30日(木) 10:00-15:00
場 所 :	三重県庁 講堂 (三重県津市広明町13番地)
参加人数 :	熟議参加生徒 30人 見学者・関係者 20人 (教員・教育関係者・その他) 合計 : 50人
熟議グループ :	熟議参加者が高校生のため匿名とさせていただきます。(敬称略) 【1班】 5名 四日市南高等学校1年男子、津高等学校2年女子、あけぼの学園高等学校3年女子、伊勢工業高等学校2年男子、宇治山田商業高等学校2年女子 〔ファシリテーター〕 三重大学 少年警察学生ボランティア 水口佑華 〔書記〕 皇學館大学 少年警察学生ボランティア 滝澤里枝奈 【2班】 5名 桑名北高等学校2年男子、飯野高等学校1年女子、津高等学校2年女子、鳥羽商船高等専門学校3年男子、名張高等学校2年男子 〔ファシリテーター〕 鈴鹿医療科学大学 少年警察学生ボランティア 菊池 恭子 〔書記〕 高田短期大学 サイバー防犯ボランティア 高木 遥香 【3班】 5名 津高等学校2年男子、セントヨゼフ女子学園高等学校1年女子、宇治山田商業高等学校2年女子、名張高等学校1年女子、尾鷲高等学校3年男子 〔ファシリテーター〕 至學館大学 少年警察学生ボランティア 後藤舞子 〔書記〕 高田短期大学 サイバー防犯ボランティア 鈴木希望 【4班】 5名 四日市南高等学校1年男子、飯野高等学校1年女子、宇治山田商業高等学校2年女子、鳥羽商船高等専門学校3年男子、尾鷲高等学校3年男子 〔ファシリテーター〕 四日市大学 少年警察学生ボランティア 平野智也 〔書記〕 高田短期大学 サイバー防犯ボランティア 森川月 高田短期大学 村上莉音

	<p>【5班】 5名</p> <p>四日市南高等学校1年男子、稲生高等学校3年男子、セントヨゼフ女子学園高等学校1年女子、伊勢工業高等学校2年男子、名張高等学校1年女子</p> <p>〔ファシリテーター〕</p> <p>皇學館大学 少年警察学生ボランティア 北村 魁都</p> <p>〔書記〕</p> <p>高田短期大学 サイバー防犯ボランティア 藤原 沙衣</p> <p>高田短期大学 別宮 茜</p> <p>【6班】 4名</p> <p>四日市南高等学校1年男子、稲生高等学校3年男子、セントヨゼフ女子学園高等学校1年女子、尾鷲高等学校3年女子</p> <p>〔ファシリテーター〕</p> <p>皇學館大学 少年警察学生ボランティア 大川喬司</p> <p>〔書記〕</p> <p>高田短期大学 サイバー防犯ボランティア 鈴木美玖</p>
--	---

4. 主担当

安心ネットづくり促進協議会	事務局
三重県 三重県教育委員会 三重県警察本部	会場調整、什器備品手配 飲食手配、庶務
各団体、事業者等	講演、ノベルティ、資料提供 他

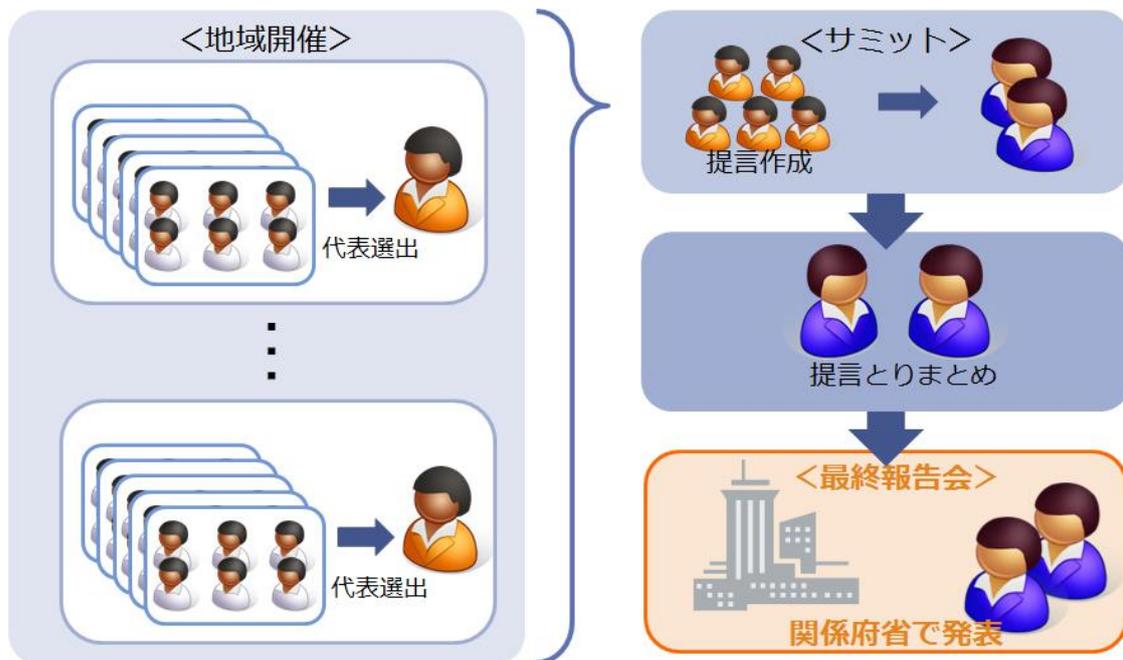
5. 高校生 ICT Conference 2017 サミット

高校生 ICT Conference 2017 サミットは、各地で開催された Conference の成果を高校生の代表として提言をまとめるための場です。その代表者の選考は以下の手順によります。

- 1) 参加が決まった場合、参加生徒を決めていただき、事前に登録をする
- 2) 熟議終了後、参加生徒の投票を基に代表を選出
- 3) 各地の代表者でサミット開催
- 4) サミット終了後、最終報告会で発表する代表を上記手順と同様に選出
- 5) 最終報告会代表者が、サミットの内容を提言にまとめ、最終報告会で提言発表を行う

6. 高校生 ICT Conference 最終報告会

高校生 ICT Conference 2017 サミットで検討された提言を、選出された代表者が報告用にとりまとめ、関係府省庁にて報告を行うとともに、関係府省担当者との意見交換によりコミュニケーションを踏る。



7. 高校生 ICT Conference の成果物と終了後の対応

- 1) グループ発表資料保存（又は模造紙など発表紙面の撮影）
- 2) Conference 終了後、発表内容、講評と併せて高校生 ICT Conference のサイトにアップデート
- 3) 高校生 ICT Conference 2017 サミット終了後、実行委員会にて取りまとめ
- 4) 高校生 ICT Conference 2017 サミット代表者による最終報告会用資料の作成
- 5) 最終報告会での発表

以 上